

本田あきこ オレンジ日記



目指す社会像

参議院議員・薬剤師 自民党厚生労働部会副部長
本田顕子

9月16日（水）、菅義偉内閣が発足しました。自由民主党の総裁選挙も初めての経験でしたが、三日間の会期で招集された第202回臨時国会の初日に行われた首相指名選挙も初めて経験することが出来ました。翌17日には、天皇陛下をお迎えし開会式が行われましたが、新型コロナウイルス対策のため、出席者は総理大臣、閣僚、各会派の代表らに絞られるという異例の開会式となりました。

さて、16日の記者会見で菅首相は「目指す社会像、それは自助・共助・公助そして絆だ」と発言されました。この言葉は、高齢者が地域の実情に応じて、自立した日常生活を営むことができる体制である「地域包括ケアシステム」においても使われています。平成25年3月の地域包括ケア研究会の報告書では「自助・互助・共助・公助」と表現していますが「絆」は「互助」に当たるものと私は考えています。つまり、人と人の結びつき、支え合いや助け合いということであって、住民組織の活動やボランティア活動であると報告書で説明されています。「共助」と共通点がありますが、共助は医療保険・介護保険制度に基づくサービスを指しており、費用負担が制度的に裏付けられているのに対して、費用負担の裏付けのない、いわゆるボランティア活動が「互助」であり「絆」なのだと理解しています。国民皆保険制度を堅持することは当然であります。少子高齢化が益々進んでいる状況の中で、自助や互助・絆の果たす役割が一層大きくなるものと思われまます。

次期臨時国会に向けて、党の厚労部会では副部会長を拝命することになりました。新たな体制の下で政務、党務に力一杯取り組むことを改めて決意いたしました。



本田あきこ



メルマガ登録



本田あきこの部屋



@89314honda